

2014年8月5日

三井倉庫の韓国釜山新港物流センターが完成し稼働開始 —タイに続くアジアパシフィック地域の物流網拡大—

三井倉庫株式会社（社長：藤岡 圭）が韓国釜山で建設していた新たな物流施設（延床面積 15 千㎡）がこのほど完成し、7 月から本格稼働を開始しました。当社はコンテナターミナルに隣接するエリアに 37 千㎡の土地を確保し、施設を建設したもので、韓国における物流事業の中心拠点として運営して行きます。

本物流センターでは、既存貨物の集約を図るほか、釜山新港 FREE TRADE ZONE の立地を生かし、非居住者名義保管、保税状態での流通加工といった付加価値の高いサービスを提供して行きます。また、広大なヤードでの特殊コンテナ取り扱い、低床倉庫での設備関連輸送や、危険物保管、定温倉庫での食品保管、一般倉庫での流通加工業務など、多様な施設を生かした幅広いサービスメニューを取り揃えています。

当社は中期経営計画「MOVE2013」の事業方針として「アジアパシフィック地域への集中投資」を掲げており、2 月に稼働したタイ、今回の韓国のほか、インドネシア、中国などでも物流施設の新設・増設を進めています。これらの新增設が全て完成すると、当社のアジアパシフィックでの物流施設規模は昨年 12 月末時点の 337 千㎡から 448 千㎡へと約 32%増加する見込みです。

【韓国釜山新港物流センター施設の概要】

名称 : Mitsui-Soko Korea Busan Newport Logistics Center
所在地 : 釜山新港エリア
施設 : 延床面積計 15,424 ㎡



物流センター全景



釜山新港 FREE TRADE ZONE

(★印が新物流センターの位置)

当社は今後とも中期経営計画「MOVE2013」の目標達成に向け、世界の成長センターであるアジアパシフィック地域での事業基盤強化や3PL、ヘルスケア関連物流など成長分野の強化のための効果的な投資を積極的に行っていく方針です。

また、本年10月に予定している持株会社制への移行により、事業を一層スピーディに展開・成長させていく体制を整備し、事業規模と収益の拡大を目指していく所存です。

以上